

IWA World Congress on Water, Climate and Energyへの参加

資源循環研究部
研究員
枋岡 英司



小規模向け汚泥燃料化技術について発表

アイルランドのダブリンでIWA主催の「World Congress on Water, Climate and Energy (2012年5月13日～18日)」が開催され、本機構からは枋岡が、研究発表および情報収集を目的に参加してきました。この会議では、20を超えるトピックについて、テクニカルセッション(259の口頭発表と174のポスター発表)が行われ、その中の「Greenhouse Gas Mitigation and Renewable Energy」のセッションで、「小規模下水処理場における下水汚泥燃料化システムに関する実用化研究」について口頭発表を行い、下水汚泥と木質チップをボイラ燃料として混焼した時の燃焼特性や本システムの温室効果ガス削減効果等について説明を行いました。慣れない英語での説明であったものの、発表後の質疑時間だけではなく、休憩時間にも質問やコメントを頂き、発表内容への関心の高さを感じました。



多くの参加者でにぎわう展示会

出展企業(団体)数は18と、WEFTECや日本の下水道展に比べると小さい規模の展示会でしたが、多くの参加者でにぎわっていました。

また、展示会場内には、ポスター発表のコーナーが設けられており、1日1回のポスター発表の時間に

は、多くの聴講者が訪れ、熱心に耳を傾けていました。

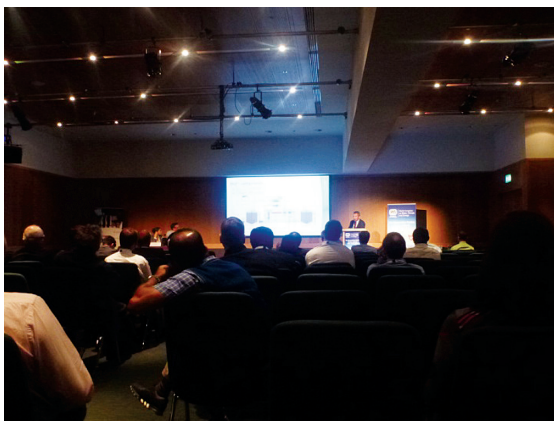


展示会場の様子



世界最大規模の回分式活性汚泥法処理施設を視察

IWA主催のテクニカルツアーに参加し、下水処理場を2カ所視察しました。そのうち1カ所は、世界最大規模の回分式活性汚泥法(Sequencing Batch Reactor)の処理施設を有する「Ringsend Wastewater Treatment Plant」です。約15,000m³の大きさの槽が24槽もあり、12槽ずつの2階建ての構造になっています。日本では、大規模下水処理場に採用されるイメージが殆どない回分式活性汚泥法ですが、ダブリンで見たその姿は非常に壮大で、多くの参加者の心を惹きつけていました。



口頭発表の様子



回分式活性汚泥法を用いた2階建ての処理施設